

## 第6回 伊東市幼児施設連絡調整協議会 会議録

- 1 日 時 令和8年2月17日（火） 午後3時00分～午後4時27分
- 2 場 所 伊東市役所高層棟8階大会議室西側
- 3 出席委員 12人（鈴木絢子委員、虫明弘雄委員、石井弘樹委員、久津間知治委員、島津裕子委員、杉山宏生委員、鈴木さと子委員、西川豪紀委員、森田まり委員、沼田芳美委員、林英美委員、深辺安弘委員）
- 4 欠席委員 1人（牧野信隆委員）
- 5 事務局 幼児教育課長 鈴木慎一、幼児教育課課長補佐兼係長 八代愉美、幼児教育課課長補佐 後藤克徳、幼児教育課主査 菊間健夫、幼児教育課主査 日吉直樹
- 6 オブザーバー 宇佐美保育園父母の会会長 松岡 夏子
- 7 傍聴者数 2人
- 8 会議の経過

**鈴木課長：**本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから第6回伊東市幼児施設連絡調整協議会を開会する。議事進行につきましては鈴木会長にお願いする。

**鈴木会長：**それでは早速ですが、本日の議事に入る。なお、会議の終了時間は午後5時を予定しているので、ご協力をお願いする。事務局の方から会議の進行上の留意点などありましたらお願いする。

**菊間主査：**会議の進行上の留意事項を説明

**鈴木会長：**本会議は公開により行うこととするので、伊東市幼児施設連絡調整協議会、傍聴人規定に基づく傍聴を条件に、傍聴者の入室を許可する。

**鈴木会長：**続きまして、議事次第2、諮問事項の審議(1)追加補足意見に移る。事務局の説明をお願いする。

**後藤補佐：**それでは前回の会議終了後、D委員よりご意見があったので報告する。

第5回の協議会資料③の3ページ目、サテライト方式とそのメリットデメリットの欄だ

が、「③幼児、乳児の連携が希薄となる」と記載をしておりましたが、連携という言葉が、職員側の考えではないかとのご意見があり、「③幼児部と乳児部の園児の交流機会が減る」と「幼児部と乳児部の職員の連携が希薄となる恐れ」の2つに訂正・追加する。

**鈴木会長**：続きまして、議事次第2(2)幼児教育課によるアンケート結果について移る。事務局の説明をお願いします。

**後藤補佐**：アンケート結果について説明

**鈴木会長**：続きまして議事次第2(3)地震による津波想定についてに移る。事務局の説明をお願いします。

**菊間主査**：地震による津波想定について説明

**鈴木会長**：続きまして、議事次第2(4)宇佐美保育園父母の会によるアンケート結果についてに移ります。事務局の説明をお願いします。

**菊間主査**：本日も宇佐美保育園父母の会会長にお越しいただいた。1月20日の夜に市長と幼児教育課から宇佐美保育園保護者の皆様に、園舎の耐震性問題に関する現段階での市の見解を示したが、この説明会に来られなかった方もいたので、父母の会で資料⑥の1枚目のアンケートを実施した。

内容としましては、①サテライト方式に関する事、②一時的な転園することについて、この2点について意見を募り、資料の⑥の2枚目以降が意見となっている。

たくさんのご意見があり、初めて見る資料となるので、ここで3分程度ご覧いただく時間を設けたい。その後に松岡会長から、この内容についてご紹介をいただきたい。

**鈴木会長**：ただいま説明がありました通り、資料⑥を2～3分程度ご覧いただき、その後に松岡会長よりご紹介をお願いします。

(資料⑥のアンケート結果を確認)

**鈴木会長**：それでは今回行った宇佐美保育園父母の会による保護者アンケートの結果について、松岡会長にご紹介をお願いします。

**松岡父母の会会長**：1月20日の説明会では、フリートークのような形で行われたのでアンケートもフリーで書けるようにした。多くの保護者からの意見があったので紹介さ

せていただく。

サテライト方式に関しては、驚きの声もあるが大きな反対はないかと思う。賛成の意見としては、土地の新たな取得が難しいのであれば止む無しということ。仮の施設になるかもしれないが自分の子供が卒園までいるかもしれないので、適度な広さや快適さが欲しいという賛成の意見。人間関係などの環境変化が親子共々少なくて良いという意見をいただいている。

また反対ではないが、津波浸水区域ということで不安を募らせている保護者はいる。土地取得までの仮施設にしてほしいという意見を割と多めにいただいている。これまでの避難方法や人数も変わると思うので、避難経路や避難先のキャパシティの問題、避難先での過ごし方等、人が増えることによって変わることがあると思うので、その対応はしっかりしていただきたい。あとは生活音や学習音、あるいは園庭の対策、乳幼児の関わり方等デメリットもあることは理解するが何らかの対策をしてほしい。

転園に関しては、保護者との合意形成の難易度の高さを非常に感じた。条件付きで賛成に転じる可能性のある意見は多々あるが、かなりの要求量になる。賛成意見に関しては安全最優先なので止む無しということで、賛成理由としては安全面のことだけ。反対の意見では送迎の負担が大きい。送迎の足が無い方もおり、子供を3人連れて送迎する保護者もいる。送迎の足の問題や送迎時間の問題があり、宇佐美の保育園に通わせてやっとな職場に間に合う方もいる。職場からお迎え時間ギリギリに着く方もいるので、送迎時間の融通は利かせてくれるのかという不安を多くいただいた。厳しい意見としては、保育園が変わることによって職を失うかもしれないという意見も私の耳に届いている。転園先での送迎では、今でも各園から送迎での不満の声は聞いているが、宇佐美の保護者達が転園先の送迎レーンを使うとなったときに、パンクしてしまうのではないかという声が聞かれている。

2つ目は人間関係。みんなで転園するなら妥協できるが、今いる友達、保護者、先生との繋がりは失いたくない。家庭の事情で他の園に転園してしまう方がいるかもしれないが、可能な限り皆で一緒に卒園まで過ごしていきたいという思いを聞いている。アンケート

ートにも書いてあったが負担が増えることへの対応をしてほしいということだった。

3つ目は通勤や兄弟事情に合わせた第1希望転園先への希望が通るかかどうかという話。日々の生活があるから、通勤先、兄弟事情に合ったところに入れてほしいという意見をいただいている。

4つ目が、しっかりした避難マニュアルの整備をしてほしいということ。宇佐美に住んでいる保護者が市街地の保育園に迎えに行くとして、行くまでどれくらいの時間を待てば安全確保ができるのか。迎えに行った後に宇佐美に帰れるのはいつなのか。それまでどこで過ごせば良いのか不安。転園させるのであれば考えてほしい。

2つの議題でアンケートを採ったが、全体的な不安感として、日常生活の維持とこどもの安全確保の間で板挟みになって正直苦しいという保護者がいる。こどもの安全は最優先で確保したいが、日常生活は今の園に通わせてギリギリ成り立っているようで成り立っていない。やっぱり働きながら子どもを育てるという厳しさがここで現れていると思う。子どもや親の人間関係の変化や、通勤時間の変化などで生活のキャパシティを超えてしまうということが読み取れた。

あと、これは市との合意形成のやり方だが、色々な保護者がいるので、こうしてくれと真っ直ぐ言えないが、代替案に関するものの検討が不足しているのではないかということ。補強工事への可能性や、他の用地との比較説明がわかりやすい形で保護者に流れてこないままこの案が出されていることへの不安や不満も聞かれている。ただ一方で、案ばかりが来ることへの不満があり、そこは色々な保護者とのやりとりの仕方があればいいと思う。

説明会の資料と今回いただいた資料を保護者にも見せているが、仕事や育児の合間でも読み取りやすい説明をしてほしいという声をいただいている。忙しい保護者でもしっかり理解できるようにしていきたいと思う。できる限り保護者の理解が進むようにしていきたいと思う。

あとは地域への責任感を保護者も持っており、宇佐美地区が空洞化してしまうことへの懸念、これは転園した後に、宇佐美地区に保育施設がなくなるということを不安に思っ

ている。小さな子どもなので自分の足で通園したりはできない。地域の方々にとってもこの地区に子どもがいることを分かっておいていただかないと、いざという時に困るといふ思いを抱え難色を示す保護者が多かった。

アンケート結果については以上だが、幼児教育課による幼稚園側のアンケート結果も今読ませていただき少し疑問に思ったが、幼稚園の保護者は何をどの程度知っていて、どんな思いを持って過ごしているのか。子ども園になったら一緒に通園する保護者ですし、なかなか交流の機会がないし、昨年度に立地の件で反対運動が起こったが、その時は子ども園について特に反対の声は聞かなかったかなと思う。宇佐美幼稚園の保護者が反対したから宇佐美保育園の保護者もそれに振り回される、それではいけないと思うので保育園だけじゃなくて幼稚園の保護者ともしっかり合意形成をしてほしい。

**鈴木課長：**市長が宇佐美保育園父母の会を対象に説明したのが1月20日。その内容と資料は伊東市のホームページに掲載している。幼稚園側のアンケートの説明の中にはこのページにリンクするようになっており、リンク先には保護者説明会で配布した資料をご覧の上、回答いただける環境でアンケートを実施した。

**鈴木会長：**ただいま説明がありました保護者アンケート結果と、地震による津波想定について委員の皆様からご意見、ご質問などがありましたらお願いします。

**A委員：**資料⑤にある小学校から中学校へ避難することの他に、もう一つの方法として小学校内での避難はシミュレーションするか。

**菊間主査：**まず避難方法については、高台へ逃げる方法と、垂直避難する方法があり、資料⑤は高台に逃げるというシミュレーション結果だが、垂直避難のシミュレーションも必要だと思う。今後、同じような形で数値化して避難訓練していくことは必要。

**鈴木会長：**その他に質問がある方はいるか。

**B委員：**保育園の園児たちが転園することに保護者が不安を感じていることがよく分かる。宇佐美幼稚園でも預かり保育をやっているので、預かり保育を利用するのも選択肢の一つに入るかと思う。

**鈴木課長：**宇佐美幼稚園の預かり保育の条件としては、宇佐美幼稚園のお子さんが降園

後、午後2時から午後5時までとなる。基本的には土日はなく、夏休みや冬休みの長期休業中も午前8時半から午後5時まで実施しているが、保育園とは状況が異なるところがある。やはり大きなところでいうと土曜日と休日に幼稚園で預かり保育はなく、保育園の預かりと異なる点がある。

ただ、今回のアンケート結果で転園先に宇佐美幼稚園を選んだ方がいるが、こういった預かり保育の状況、条件なのか分からないところもある。もちろん就労の状況によっては幼稚園での預かり保育でも受け入れ可能かと思うが、受け入れ時間の問題でできる方とできない方がいるのかなというところ。どのぐらいの人数が利用するのかこのアンケート結果だけでは分からない。

**鈴木会長**：他に質問がある方はいるか。

**C委員**：宇佐美幼稚園に届いた声でいうと、アンケートが急に来た感じがあった。それで保護者から問い合わせがあった。宇佐美保育園には耐震に関する市長や教育委員会からの説明があったということは保護者も理解している。認定こども園は必要ではあると思っているが、認定こども園のイメージ、例えばそのまま今の幼稚園の組織で運営するのかや、お金の問題等、そういうものも踏まえてどう答えたらいいのか正直戸惑った声もあった。

あと、保育園の問題等々があるから全部説明が無かったが、今後、幼稚園には認定こども園に向かった説明が同じように受けられるのかというような声もある。そして、令和10年度に開園されるということで、アンケートを受けた3歳から5歳のお子さんたちは卒園して対象外になっていく。令和8年度に入園するお子さんたちが対象になっていく中で、この大事な問題に在園する保護者が答えていいのか。保育園は対象者がいる中での答えをしているが、幼稚園は対象者がいない。卒園してしまうお子さんの方が多い中で自分たちが回答した結果がそのまま反映されてしまう恐れがあるのではないかという声が届いている。子ども・子育て会議では、計画の策定やこども園化の検討に際して全世帯の家庭にアンケートをしていたと記憶している。しかし今回の場合は、限られた人数の中でのアンケート集計ということで、0歳から2歳までの未就園のお子さん

たちの家庭の声が届いているのか聞かれたところである。

**鈴木課長：**そもそも宇佐美保育園の耐震の課題があり、サテライト方式という選択肢と閉園という選択肢の説明について、宇佐美保育園を利用される方に説明をしたというところがあり、協議会は市長の諮問機関になるので、このアンケートを見ていただき審議する。アンケート対象が幼稚園では3歳から5歳で0歳から2歳までの数字が反映されてないと言われれば確かにそれまでだが、保育園のそういったお子さんを持つ保護者を対象としており、保育園、幼稚園についても結局サテライトという形でこども園化することと、幼稚園からこども園へ変わることにについては、やはり現在通園している保護者の意向がデータとして必要だと思う。保育園、幼稚園それぞれのアンケート結果を皆様方には参考資料としてご審議いただきたいと考えている。ここでの答申や伊東市としての方向性が決まれば、もちろん幼稚園、保育園に改めて説明することは間違いなくやっていきたい。

**A委員：**先ほど避難シミュレーションについて質問をしたが、補足させていただきたい。踏切内に電車が止まって避難経路を寸断した場合も想定し、小学校への垂直避難もシミュレーションに入れていただくといいのかなと思う。

**鈴木会長：**続きまして、議事次第2(5)市として進むべき選択についてに移る。ここからの審議は非公開とするので、傍聴人及び報道の方はご退室を願う。

(傍聴人、報道退室)

**鈴木会長：**それでは審議を再開する。本日の保護者アンケート等のご意見を踏まえ、諮問事項の「サテライト方式」、「閉園」の2つに加え、「一時転園しサテライト方式の開園に合わせて戻ってくる」の3案の中から、市として進むべき選択肢を決定したい。今回は委員の皆様全員から、どの選択肢とするか、その選択肢とした理由についてご意見を伺い、その後に改めて決を採りたい。そして、決定した案についての付帯条件を伺いたい。

まず、学識経験者か園長先生からご発言をいただきたい。

**D委員：**アンケート結果にあったとおり、現在の宇佐美保育園の園舎で2年間を過ごし

て、その後サテライト方式の開園に合わせて引っ越すという意見が多かったので、そちらでよろしいかと思う。不安の中で2年間をどう過ごしていったらいいのかが今の一番の悩み。市長との懇談の場でも、倒壊する危険性のある施設からの避難訓練というものを探せばあるのではないかという意見もあった。来年度の避難訓練の計画を立てる際に、保護者の方にも安心してもらえるように、子供たちと職員が確実に逃げることができるような計画を立てられればいいなと思うが、具体的な計画がないと不安は解消されないのかなと思う。

**C委員**：閉園の案に賛成する。命を預かっている者として、いつ災害が起こるかわからない中でもし自分が園長をしていた場合、毎日それを思いながら生活することの怖さというのが全てになっている。優先すべきはこどもの安全と命、そこをなくして保護者の安心というところには至らないのかなと思うので、2年間待ってサテライトというより、今こどもの命をどうするかっていうことを最優先と考え、その2年間に災害があったときの責任の所在を考え、もし自分だったらということを考えて答えを出した。

そして、出生数が公表されて懸念される事項としては、第3期子ども・子育て支援事業計画には、令和7年度から令和11年度の出生数の推計が示されていて、令和7年度において0歳児は210人という数値が出されている中で現状は158人となっている。本来はこのような少ない出生数を踏まえた中でどこに建てたらいいのかを考えていかなければならない。ただ、宇佐美地区の今後の見込み数が私達も示されていたが、今現在地域のこどもの出生率っていうのが見えない中で測るべき点はここの推計を頼りにするしかないのかと思いながら、令和7年度から11年度の推計があり、令和11年度の0歳から5歳までの人数が1,212名という推定が出ていて、緩やかに減少傾向にあると記載されている中で、果たして宇佐美地区にどれぐらいの人数がいて、これからどんなふうになっていくのかなということを皆さんと審議していきたい。

**B委員**：私はサテライト方式のこども園を作ることに賛成だが不安なところもある。前回いただいた資料のスケジュールを見ると、閉園するスケジュールでは令和9年4月1日から転園先での保育を開始、サテライト式のこども園では令和10年度に開園をする

ことが書いてあるが、諮問事項の1と2が同時進行したとすると、子供たちは1年間で戻ってこれるのかなと思った。

**鈴木課長**：前回資料の中でサテライト方式の場合は令和8年度から令和9年度に設計工事等を行い、令和10年度からの開園を目指すスケジュール。閉園の場合は年度途中も視野にあるが、令和8年度を以て閉園して令和9年度から転園していただくスケジュール。確かに1年しか違わないが、サテライト方式と同時に閉園も進めて転園先の環境整備もしながらサテライト方式の設計等を同時にしていく③案については、スケジュールとしては1年とは言えない部分もある。サテライト方式ができるまでの概ね2年は今の保育の継続をするのか、令和8年度を以て閉園するのか、そして一時転園してサテライト方式ができれば戻ってくるのか、なんとか1年から2年の間でやっていける見通しはあるが、1年しか違わないかと言われればなんとも言えない。

**B委員**：保育園アンケートの設問4にある③案は諮問事項に無いが、どういった経緯で案が加わったのか。

**鈴木課長**：当初は①、②を諮問した。ただ実際①、②だけではないのではないかとのご意見も前回の会議で出てきて、保護者会への説明の中で、閉園とサテライトを同時に進めていくという要望もあり、諮問事項の①、②のハイブリッド型の3案目の選択肢として提示した。

**B委員**：ありがとうございます。結果、3案目でもやむを得ないかなと思う。

**鈴木会長**：そうしますと、①か③の選択肢でよろしいか。

**B委員**：はい。

**E委員**：安全と時間と場所を色々考えるとなかなか答えが出ないが、中間答申ではまずこどもの安全が優先されることが大前提だったと思われ、閉園も致し方ないのかなとは思いつつ、宇佐美小学校の場所は危険だと意見が出て、中間答申を出した時の宇佐美臨海テニス場跡地とほぼ変わらない場所で、市民に対して答えになっていくのは少し不安で大変迷っている。

**鈴木会長**：ではまた最後に意見を伺う。

**A委員**：一番の問題は今の保育園の状況を打破するためにどうしたらいいかというところ。①案の2年間の長いのか短いのかとかそういう考え方はあるが、少なくとも保育園の保護者の方々は2年間我慢するというアンケート結果が出たというのは意外だった。去年1年間協議したことを踏まえると、私はサテライト方式がベターではないかなと思う。ただいまE委員の方からもあったように、前回の協議会の中で発言したが、宇佐美臨海テニス場跡地の海拔と宇佐美小学校、宇佐美幼稚園の海拔はほぼ変わらない。海拔7m～8mというところがネックになると思うので、何年か先にもっと安全な場所へこども園を作る計画を持った中で、今回の①案であればいいかなと思う。

**鈴木会長**：そうでしたら、①案でよろしいか。

**F委員**：私は一番に子供たちの安全と現場の皆さんの安全を考える。アンケートの結果にもあったように、サテライト方式で切れ目ない対応をしなければいけない。そして保護者が抱える不安については、小学校に移ったときの避難マニュアルや垂直避難の時間をしっかり提案し、また、保護者の仕事の問題もある。市の方で横断的な対応をしていただき、市として説明責任を果たすことが一番大事だと思うので、安心していただけるような説明を保護者にしていただきたい。最終的に決めるには、市はこういう対応を考えているとしっかり説得できるような内容で進めていただけたらと思う。なので①案を考えている。

**G委員**：第5回目の協議会で出された諮問内容について、正直その時は両極端だなという思いがあったが、今日示された③案が一番いいのかと個人的には思った。しかしながら、預ける側の保護者のアンケート結果を改めて見た中で考えると、転園してしまうと仕事の関係、生活のリズムが崩れるということがあるので、アンケート結果等を踏まえ①案と考える。

**H委員**：①案、②案の他に選択肢がないのかというところで意見を言わせていただいたが、保護者のアンケートや先生方のご意見を聞くと、①案でやむを得ないのかなと感じる。一つ気になるところは宇佐美小学校、宇佐美幼稚園の場所が宇佐美臨海テニス場跡地とどれだけ違うのかが気になるところ。ただ、選択肢としては①案。

**I 委員：**教育委員会でも話し合うが、現状としては一番こどもの安全をどのように確保するかが問題になる中で、アンケート結果として7割近い方の理解が得られているサテライト方式が一番いいかなと思うが、転園を希望する方は転園も可能だし、引き続き在園される方には建物の安全性をどれだけ確保できるか支援していくことが必要。そして、これは莫大な費用をかける対策になることも勘案しながら、市として示していく必要があると思う。

**鈴木課長：**どのような方向であっても、保育園、幼稚園には学区はないので、保護者の就労先が変われば転園という制度はある。転園も含めて保護者の権利ではないが制度の中でやっていき、保護者の考えの中でやっていくことになる。

**J 委員：**先ほどから話が出てきているが、建物の危険性があっても転園を希望する方は少ないのではと思うと同時に、転園するということは子どもにとっても家庭にとってもハードルが高い。ただ、要件を満たして希望する場合は転園できるという道が残されていることは良いことだと感じた。それからサテライト方式が現実的だとは思いますが、一方で小学校の教育活動と幼稚園の教育活動では時間帯も違うし、様々なことがある中で比較的建物もオープンな作りになっておりますので、小学校の教育活動に良い影響もあると思うが、マイナスの影響が出ないような施設にする必要があるのかなと考える。教育の内容としては、一つの建物の中に幼児期の子供と学童がいることは、接続面でも非常に重要であると思うので、一つ良い事例が生まれることも期待ができると思う。

**K 委員：**早急に園児及び職員の安全確保を図ることが第一。さらに、機能移転を最優先にするということで①案と②案の選択肢が示されたと認識をしている。そこで、どちらがいいのかこの場で選択をするというかなり悩ましい選択をしなければいけない。その中で保護者のアンケート結果で転園を希望する回答が少なかった。更に転園することの負担感について話があり、何が一番いいか難しいと思うが、その中でベターな判断とする①案のサテライト方式がいいのではないかなと思う。①案だとしても2年間は在園しなければいけないというところもあるが、保護者の希望があれば転園できるという選択肢もあるところは一ついいのかなと思うし、あとは、耐震性が劣る建物の安全性を確保し

ていくことと、さらには避難訓練のシミュレーションの精度を上げて詰めていくところも付帯条件としてしっかり記述することで①案が良いのではないかと思います。

**E委員**：アンケート結果を重視するのであれば①案。

**鈴木会長**：全員からご意見ありましたので、それでは改めて選択肢について決を採り、最も多かった選択肢については次回の会議で答申（案）としてお示しする。

それでは、口頭でお聞きしましたけれども、挙手を行って決をとらせていただきたいと思いますと思う。

①案の「サテライト方式によるこども園が開園するまでの約2年間は、宇佐美保育園で継続して保育を受ける」を選択する方の挙手を求めます。

（挙手10名）

**鈴木会長**：続きまして②案の「令和8年度中に閉園し、他の保育施設に転園する」を選択する方の挙手を求めます。

（挙手1名）

**鈴木会長**：①案が10名、②案が1名、③案が0名という結果になった。

この①案で次回の会議で答申（案）としてお示しする。ここで答申（案）の示し方について事務局からの説明をお願いします。

**菊間主査**：答申（案）の示し方について説明する。

①案で決定をしたが、この案で進めていく上で留意すべきこと、要望すること等の付帯条件をつけて答申案を作成するのでご意見をいただければと思う。

**鈴木会長**：ありがとうございました。決定した案を進めていく上での付帯条件について、ご意見のある方は挙手をお願いします。

**H委員**：市長の諮問であれば、施設を新たに作ることは職員にとって大きな業務負担になってくる。幼児教育課もかなりの仕事量で新たに施設を作るとなると現状の人数では足りないと思うので、良い施設を作るには職員に無理させず、職員の増員も考えていただきたい。

**B委員**：サテライト方式のこども園の方向に進んだ場合、幼稚園の職員、保育園の職員

の理解と話し合いがとても大切になってくると思う。直接保育内容に関わることなので一番大切ではないかなと思うので、お互いが同じ方向を見ることができるよう十分な話し合いをしていただきたいと思う。

**J委員**：繰り返しになるが、サテライト方式で園児が入る場所を作ることによって大きな配置替えが必要になってくると思う。小学校は1年生から6年生まで幅広い世代がいる。今は一年生に合った作り、高学年に合った作りのところで生活している。それを認定こども園用の作りに大幅な見直しが必要だとなった場合には、こども園で使用する部分だけでなく他の生活する部分も幅広く施設の見直しをしていただきたいと考える。それから避難方法や生活の仕方を詰めるときには、当然だと思うが現在生活している小学生の安全も同時に守られるところも新たに見直しが必要。

**C委員**：教育内容の部分で幼稚園と小学校が一緒になっていくという話があったが、私達自身も小学校と交流をしながら向かっていくような意識付けも必要になっていくかと思う。より一層小学校と連携し、着実に子供たちが迎え入れられる準備、そして私達は向かっていける準備がしっかりとできるようにしていけたらと思う。

また、令和10年度開園の計画だが、ぜひ宇佐美幼稚園保護者にも安心して向かっていけるようなお話を教育委員会でお話していただき、一緒に歩み寄っていただけたらと思う。

**D委員**：サテライト方式による移転の計画ということで、前回の資料に「サテライト方式のいずれかの計画と同時に、新たな保育施設を建設することを約束するものではない」と書かれています。一方、宇佐美保育園父母の会の説明会では「新たな建設の検討を進めつつ、サテライト方式の運営状況と園児数の推移並びに学校統合の状況を検証の上、今後の園の方向性を検討する」という文言で説明されていたと思うが、私は後者の意見の方を採用していただきたいと思う。A委員が言ったように、将来的に良い土地があったらそちらに建てるということを約束してほしいということではないが、津波が来ない土地に建ててほしいということを去年からずっと言い続けてきたが、少子化も相まってどうしたらいいか分からないという迷いはあるが、安心安全な土地にこども園があつて、

災害を最小限に抑えられた土地で保育をしたいという思いは引き続きあるので、可能性は持っていたきたいという希望がある。

**鈴木会長**：ありがとうございました。この決定した案にご意見がありました付帯条件を次回の会議で答申（案）としてお示しする。

次に、議事次第3その他に入ります。その他として、委員の皆様から何かありましたら伺う。

（特になし）

**鈴木会長**：次に議事次第4の次回開催についてに入る。事務局の説明をお願いします。

**菊間主査**：次回開催について説明する。第7回目の日程につきましては、3月23日の週で改めて日程調整をさせていただく。内容につきましては、これまでの会議内容を整理した答申（案）についての審議を予定している。

**鈴木会長**：ありがとうございました。皆様のご協力をもちまして本日の議題は全て終了する。次回は答申案を審議する。また、追加補足の意見がある場合は、2月27日の金曜日までに事務局までお願いします。

**鈴木会長**：以上で本日の会議を閉会する。